秋八月二十日に、右大臣橘家にして宴する歌

四首

一〇二四番

長門なる　沖つ借島　奥まへて　我が思ふ君は
千歳にもがも

一〇二五番

奥まへて　我を思へる　我が背子は　千歳五百歳
ありこせぬかも

一〇二六番

ももしきの　大宮人は　今日もかも　暇をなみと
里に出でざらむ

一〇二七番

橘の　本に道踏む　八衢に　物をそ思ふ　人に
知らえず